

	SRV@III SRV@III	SRV@5	備考		
ブロック温度制御範囲	RT-290C	RT-350C	ブロック温度		
荷重制御範囲	1N-2000N	段取替え可能 1N-2000N or 3N-2500N 0.1N-100.0N or 0.1N-200.0N*	段取替え所要時間: 5min-10min		
周波数制御範囲	1Hz-500Hz	スタンダード 1Hz-500Hz スロームメント* 0.001Hz-10.00Hz*	SRV@5 スロームメントの最大制御周波数は10.00Hzです。低速高荷重試験に対応可能		
ストローク制御範囲	0.1mm-4mm	0.01mm-5.00mm	SRV@5 では0.01単位での制御可能		
ポリシヨントライブ・パワー[最大]	4 mm @ 50 Hz	5 mm @ 50 Hz	周波数に依存します。左記表記は最大周波数です。		
試験チャンパ - サイズ	235mm x 255mm x 230mm	300mm x 300mm x 300 mm	チャンパ - サイズ 大型化で実部品を使用した摩擦摩耗試験が可能		
適用可能なテストモード	標準の試験構成のみ	実際の使用環境を模して実部品を固定しての試験も可能*	専用治具/雰囲気温度・湿度管理/低温・高温ブロックを使用する事で現実に則した試験を実現*		
試験チャンパ - の傾斜	不可	0° - 90° 設定可能*	潤滑流体の慣性移動を模擬		
レービングブロック	振動削減能力無し	振動削減タイプ 大型レービングブロック	大型化により、余分な振動を除去		
フリクションセンサー	PIEZO センサー x 1	PIEZO センサー x 2	PIEZO センサー x 2 具備による精度向上 ヒーターからPIEZOセンサーの距離を確保する事で、温度の影響を回避		
ポリシオンアーム	両端部はやや揺動気味	全ストロークに亘る並進ポリシオン	SRV@5 では全域に亘る並進ポリシオンを実現		
ソフトウェア	OIPMain / WIN XP OIPMain2 / ≥WIN 7*	OCA Desktop / WIN 10	OIPMain2 へのアップグレードには、PCの更新が必須		
制御 PC	≥WIN 7 へ更新要*	最新型工業用 PC 具備	OIPMain2 へのアップグレードには、PCの更新が必須		
精度 / 分解能	旧世代構成のため、やや不安定	分解能 24bit の ADC(アナログ⇒デジタル変換)機器により完全デジタル制御を実現。ストローク全域に亘り並進ポリシオンを実現するアームに改善。更に PIEZO センサー x 2 を具備する事で余分な振動を低減したレービングブロックにより画期的に精度が改善されている。			
外観	テーブル上に設置型	スタンドアローン型[振動削減タイプ]			
最大サブリンクレート	COF	16ms	COF	10 μs*	HRA オプション必須
	その他	2sec	ストローク(ホジション)	10 μs*	HRA オプション必須
	-	-	その他	1ms	
HRA(高分解能サブリンク)	不可	選択可*			
コンポ - ネット試験	不可	選択可*		SRV@5 ではホダ - を設計する事で様々なワークを保持した試験が可能。 例 1) ピストンリング vs シリンダ - ライナ 例 2) ピストンヘッド / ピンコンロッド	
高温試験(≥350C)	不可	高温ブロック設定で ≤1000C 可能*		ブロック温度	
オプションの追加	不可	多様なオプションが選択可能*		SRV@5 選択可能なオプション例 ・ HRA ・ 電気接触抵抗 ・ ローション ・ 高温(1000C) ・ 90° 傾斜 ・ スロームメント ・ アコースティックエミッション ・ 低温(-45C) ・ 温度/湿度制御 ・ オイルポンプ + ヒーター その他、有ご相談	

*はオプション機能/機器となります。